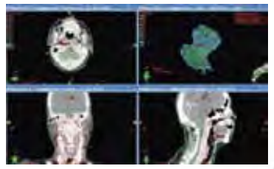
放射線部の紹介

はじめに

当院放射線部は、放射線科医師3名、診療放射線技師13名、医療クラーク1名、放射線・内視鏡室の看護師及び嘱託職員10名で、レントゲン撮影、CT検査、MR検査などの画像診断検査や放射線治療を行っています。

新しい放射線治療装置が導入されました。

新庄病院の放射線治療装置が8月に更新され、最新モデルが導入されました。これまでよりも精度が高く、安心、安全な放射線治療を提供できるようになりました。



その他の検査について

放射線部では、CT検査やMR検査の他に、さまざまな検査に携わっています。

マンモグラフィ

視触診だけでは見つかりにくい石灰化や、乳がんの早期発見に役立ちます。撮影は全て女性技師が担当します。

骨密度検査

いろいろな骨の骨密度を測定します。

核医学検査

放射性医薬品を投与して、各臓器の機能検査などを行います。

みなさんは「がん患者サロン」をご存知でしょうか?

当院では、がん患者さんとそのご家族に対する精神面を中心としたケアの充実や情報提供、学び合いの場の提供として、平成27年11月から、「がん患者サロン」を開催しております。

是非、ご参加ください。

回 覧

県立新庄病院だより

わ か ば

平成28年 春号
山形県立新庄病院
新庄市若葉町12番55号
TEL.0233-22-5525
yshinbyo@pref.yamagata.jp
平成28年 3月発行

最上地域の医療機関の連携について

高齢社会の到来に伴い、慢性疾患が増加していることから、複数の医療機関が連携・協力して医療を行う「医療機関の分業化」が求められております。新庄最上地域においては、当院が基幹病院・二次医療機関として、主に手術等が必要な急性期医療を担っており、開業医の皆様や他の病院などの医療機関は風邪や腹痛などの一次医療や慢性期・回復期医療を担っております。

当院では、地域における医療機関の連携を更に充実させるため、新庄市最上郡医師会との共催で定期的に医療連携懇談会を開催し、「より顔の見える関係作り」を進めております。平成27年11月18日(水)に開催した懇談会における事例発表では、自宅から当院へ救急搬送され、加療後に自宅退院し、地域の先生がフォローしている事例が連携の一例として紹介されました。あらためて地域における医療機関の連携の大切さを感じました。当院では今後も地域内の医療機関の連携を進めるため、開業医の皆様はじめ関係の皆様のご協力のもと様々な取り組みを進めてまいります。地域の皆様におかれましても、これらの取り組みについてご理解をよろしくお願いします。

診療科シリーズ

産婦人科

新庄病院の産婦人科について紹介します。

現在、産婦人科は医師が4人体制となっています。

新庄病院は新庄最上地区で唯一分娩を取り扱っている施設であり、ここ4年間は600例を超える分娩を担当してきました。帝王切開は100例前後であり、帝王切開率はおよそ18%で推移しています。

産科について、山形県では二次医療機関（日本海総合病院・新庄病院・山形市立病院済生館・公立置賜総合病院・米沢市立病院）と三次医療機関（山形県立中央病院・山形大学医学部附属病院・山形済生病院・鶴岡市立荘内病院）の役割分担が機能しており、妊娠34週以前の早期産や重症化しやすい妊婦は積極的に、早めに三次医療機関へ母体搬送することとなっています。しかし、リスクを割り振っていても突発する緊急事態があります。例えば、分娩後出血が止まらず子宮全摘術になった患者さんがいましたが、手術は滞りなく施行され元気に退院されました。このように新庄病院は緊急事態にも対応できる、安心と安全を提供できる水準を維持していると考えております。

婦人科の手術は年間80例前後で推移しています。多くは子宮筋腫や卵巣腫瘍など良性疾患の手術でしたが、悪性腫瘍についても積極的に手術を行っています。中原医師は山形大学医学部附属病院で悪性腫瘍の手術を数多く経験しており、新庄病院においてもその技量を十分に発揮しています。診断から手術、その後の化学療法、そして緩和医療と一連の治療がすべて滞りなく完了する体制が整っています。

地域の特性として、骨盤性器脱の患者さんが多数みられます。高齢の方が多いので、原則としてペッサリーを用いた保存的な対応をしていますが、希望される方には手術も行っています。骨盤性器脱の手術法はまだ変遷の途中であり、学会としての標準的な基準も定まっていません。

新庄病院では従来方法（腟壁形成術）に加えて、一時期メッシュを用いた手術も導入しましたが、最近ではより合併症が少なく効果も確実な仙棘（せんきょく）靱帯固定術という骨盤の奥の靱帯を支えにする手術を試みています。

また、不妊症例にも対応しています。排卵誘発から夫婦間人工授精まで行っています。更にステップアップして体外受精が必要な患者さんには、希望の施設への紹介はもちろんですが特に同じ県立病院同士で河北病院の不妊症担当医と密に連絡を取り合っています。採卵の日程を決めるとき、採卵日、胚移植日の3回だけ河北病院に診察に行っていただきますが（およそ1時間）、前後はすべて当院で対応することが可能です。

日本産科婦人科学会は、診療の4番目の柱として予防医学の観点から女性ヘルスケアを立ち上げています。当院においても午後まで外来を延長して、ホルモン補充療法、漢方、骨粗鬆症の早期診断や投薬などに幅広く対応しています。

常に新しい知見を取り入れながら、地域の皆様の実情にあった診療を心がけていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

2病棟の面会制限について

当院の2病棟は、産婦人科と内科（女性）の病棟となっており、生まれたばかりの赤ちゃんが入院しています。生まれたばかりの赤ちゃんは、免疫力が弱いため、感染症にかかると重篤な状態になることがあります。このため、赤ちゃんの健康を守るために、次のとおりご面会を制限させていただいております。

- **お子様連れのご面会はお断りしております。**
- **病室でのご面会はご家族の方お一人のみとし、大勢の方のご面会はご遠慮いただいております。（急用のある方、特に事情のある方は看護師までご相談ください）**

ご不便をおかけすることと思いますが、
安全で安心な医療を提供するために、ご理解とご協力をお願いいたします。